

【報告事項 1.】

令和元年度事業報告の件

※令和元年度（2019 年度）会務報告は途中で元号が変わったため、西暦で統一表記しています。

2019 年 5 月 1 日から元号が令和に変わり、同年 10 月に消費税が 8%から 10%に改訂されるなど、社会的に大きな変化があった 1 年となった。

また、12 月には、中華人民共和国湖北省武漢市において入院中の肺炎患者の検体から、遺伝子配列解析により新型コロナウイルス SARS-CoV-2（以下新型コロナウイルス）が同定されたことに端を発し、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行は世界各国に広がっていき、日本でも全国に感染が拡大していった。

厚生労働省は 2 月 25 日に「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を示し、2 月 27 日には政府が“全国一斉臨時休校”の対応を開始した。これを受け、本会では 2020 年度に実施する狂犬病予防定期集合注射により、本会会員や都民への感染拡大が起こらないよう、基礎自治体に対し、4 月の集中を避け、6 月以降での実施検討を申し入れた。

その後、3 月 11 日、世界保健機関（WHO）はパンデミックを宣言し、3 月 26 日、日本政府は、新型インフルエンザ等対策特別措置法（平成 24 年法律第 31 号）第 15 条第 1 項の規定に基づき、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置した。

東京都においても様々な感染拡大対策措置が取られる中、本会においても感染対策の一環として、2 月～3 月に実施予定だった講習会、委員会等の事業及び会議は開催を中止した。

3 月 24 日に、東京オリンピック（パラリンピック）の 2020 年開催を中止することが発表されたことを受け、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や、公益社団法人東京都医師会、公益財団法人日本補助犬協会等と連携した支援体制整備のスケジュールを再調整し、継続的に体制の充実を図ることとした。

また、本会の危機管理室感染症対策セクションにおいては、会員に対して新型コロナウイルスと対策に関する最新情報を適宜提供した他、都民やペットの飼い主に対し、新型コロナウイルスに関する正しい情報を発信し続けることで、情報の錯そうや不安による社会の混乱を防ぐように努めた。

関連組織との連携事業として、かねてより準備を進めていた FASAVA 東京大会が 9 月 25 日～29 日の 5 日間にわたり日本臨床獣医学フォーラム（JBVP）と協力して開催され、盛況のうちに終了した。

恒例となった小池東京都知事のヒアリングにおいては、学校飼育動物や野生鳥獣の遺体検案及び埋葬事業における児童・都民への公衆衛生対策や情操育成への寄与と充実化の必要性、マイクロチップ装着率の推進対策、補助犬診療費助成による身体障がい者支援事業の重要性などを提言した。

継続的に実施している公益事業として、調査研究事業、小動物地域獣医療の充実のための情報提供、狂犬病等の人と動物の共通感染症の都民生活への発生予防・まん延防止、学校飼育動物を通じて都民への動物愛護精神啓発と児童の健全育成の支援、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による畜産物に係る都民の食の安全の確保、動物

のいのち救済基金等を活用した動物福祉の向上と、人と動物のより良い共生社会の構築、補助犬の保健衛生の向上及びその普及啓発活動を通じた補助犬法の周知と身体障がい者生活支援、災害時の動物救護対策の構築、小笠原諸島の希少種や繁殖地の自然環境保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療などの活動に取り組んだ。

さらには、事業推進と業界の活性化に関しては、動物業界のみならず様々な分野・業種が一致協力した取り組みが行えるよう、関係機関、本会賛助会員、東獣サポーターとのミーティングを行うなどして相互連携を図ってきた。

本会会員に対する福利厚生サービスについては、賛助会員 86 社による協力を得て、本会会員や家族、勤務スタッフも含めた会員特典の提供として、健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日に記念品の贈呈を行うなど、会員特典と福利厚生の実に積極的に取り組んだ。

I 会 務 報 告

※令和元年度（2019年度）会務報告は途中で元号が変わったため、西暦で統一表記しています。

1. 役職員等の人事

（1）東京都庁関係：

村中志朗 会長：東京都動物愛護管理審議会委員（2018年3月～2020年2月）
高橋恒彦（前理事）：東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員（2017年7月～2019年7月）
高橋恒彦（前理事）：東京都自然環境保全審議会委員（2017年7月～2019年6月）
佐藤 克危機管理室感染症セクション長：東京都動物由来感染症検討会委員（2018年4月～2021年3月）
鈴木 博 理事：東京都野生イノシシCSF対策協議会委員（2019年3月～）
平井潤子 事務局長：東京都動物愛護管理審議会小委員会委員（2018年10月～2020年2月）
平井潤子 事務局長：東京都動物愛護推進協議会委員（2018年3月～2021年2月）

（2）日本獣医師会関係：

村中志朗 会長：日本獣医師会副会長（2017年7月～2019年6月）
天野芳二（前副会長）：東京地区代表理事（2017年6月～2019年6月）
安田辰巳 副会長：東京地区代表理事（2019年6月～2021年6月）
天野芳二（前副会長）：職域総務部会総務委員（2017年7月～2019年6月）
天野芳二（前副会長）：家庭動物飼育環境健全化検討委員会（2017年7月～2019年6月）
中川清志 業務執行理事：
動物福祉・愛護部会 適正管理対策委員会小委員会
動物福祉愛護委員会委員（2019年7月～2020年6月）
学校動物飼育支援対策検討委員会（2019年7月～2020年6月）
総務委員会（2019年7月～2020年6月）

（3）株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

小松泰史（前副会長）：
獣医師賠償責任保険中央審議会委員（2018年7月～2019年6月）
獣医師賠償責任保険中央審議会委員（2019年7月～2020年6月）

（4）オリンピック関係：

村中志朗 会長：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問（2014年6月～）

（5）関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

村中志朗 会長：東京地区代表理事（2019年4月～2020年3月）
天野芳二（前副会長）：監事（2018年4月～2019年6月）
安田辰巳 副会長：監事（2019年7月～2020年6月）

（6）その他：

村中志朗 会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員

(2019 年 6 月～)

高橋恒彦（前理事）：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事（2018 年 5 月～2019 年 6 月）

中川清志 業務執行理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事（2018 年 6 月～）、

中川清志 業務執行理事：簡易裁判所調定専門委員（2019 年 4 月～2021 年 3 月）

鈴木 博 理事：東京都農業共済組合損害評価会委員（2019 年 4 月～2022 年 3 月）

2. 本会の活動状況

（1）会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。

ア. 定時総会：第 8 回 6/23

イ. 定例理事会：第 1 回 5/17、第 2 回 7/29、第 3 回 10/18、第 4 回 12/13、第 5 回 3/19

ウ. 臨時理事会：開催していない

エ. 監査会：第 1 回<2018 全期決算監査>5/8、第 2 回中間監査会 11/29

オ. 会務運営会議：第 1 回 4/11、第 2 回 5/7、第 3 回 9/21、第 4 回 11/26、第 5 回 2/21

カ. 地域職域合同支部長会：第 1 回 6/3、第 2 回 12/5

キ. 支部会計説明会（個別相談会）：第 1 回 2/5

ク. 倫理委員会：開催していない

ケ. 役員候補者選任委員会：第 1 回 12/9

コ. 共生社会構築委員会：第 1 回 5/8、第 2 回 7/10、第 3 回 10/9、第 4 回 1/29、第 5 回 2/19

サ. 産業動物委員会：第 1 回 5/31、第 2 回 2/28

シ. 獣医公衆衛生委員会：新型コロナウイルス感染症対策により中止

ス. 防災ブロック長会議：第 1 回 3/18

セ. 広報委員会：第 1 回 5/21、第 2 回 7/9、第 3 回 8/27、第 4 回 10/29、第 5 回 1/24、第 6 回 2/4

ソ. 東京地区三学会対策委員会：第 1 回 5/9

タ. 表彰審査委員会：第 1 回 5/14

チ. 都委託医療事故防止・対策委員会：第 1 回 9/9、第 2 回 11/28、第 3 回 11/26、第 4 回 2/18

ツ. 人と動物の共通感染症対策委員会：第 1 回 9/3、第 2 回 10/28、第 3 回 11/26、第 4 回 1/28

テ. 危機管理・防災関係：第 1 回 10/25

ト. 狂犬病予防対策委員会：第 1 回 9/13、第 2 回 10/24、第 3 回 11/21

ナ. 学校飼育動物対策委員会：第 1 回 6/4、第 2 回 11/10

ニ. 70 周年記念誌編集委員会：第 1 回 4/2、第 2 回 5/10

ヌ. 関東連理事会・幹事会：第 1 回 4/14、第 2 回 7/21、第 3 回 2/16

ネ. 東獣賛助会員ミーティング：新型コロナウイルス感染症対策により中止

- ノ. 東獣サポーターミーティング：新型コロナウイルス感染症対策により中止
- ハ. FASAVA 関連会議：4/24、6/11、7/24、8/30、2/9
- ヒ. 自主とう汰家畜(EBL 高リスク牛)評価人会：第1回 11/15、第2回 1/10
- フ. 馬関係事業推進会議：9/12

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

- ア. 公益認定関係：2018 年度事業報告及び決算報告の電子申請（6/30）、2020 年度事業計画及び予算計画の電子申請（3/31）
- イ. 都庁関係：2019 東京都動物愛護推進員委嘱状交付式への出席（5/8）、2019 年度第1回東京都動物由来感染症検討会への委員派遣（7/18）、補助犬「身体障がい者支援活動事業」診療券の贈呈（2020 年度分 3/10）、補助犬「身体障がい者支援活動事業」2019 年度分感謝状の受領（5/14）、2019 東京都委託獣医師育成対策事業の受託、2019 東京都補助獣医公衆衛生学術振興事業の実施、2019 東京都動物病院における動物由来感染症モニタリング事業受託、2019 傷病野生鳥獣の保護治療等事業受託、2019 ノネコ搬送に伴う感染症対策等事業受託、2019 小学校動物飼育推進校事業受託
教育庁地域教育支援部 学校における動物飼育に関する研修会に係るグループ討議担当講師の推薦（6/24）
 - 区部会場 7/23（火）東京都教職員研修センター
 - 多摩会場 8/1（木）東京都立多摩図書館セミナールーム牛白血病高リスク牛自主とう汰事業打合会出席（9/30）
東京都 CSF ワクチン接種説明会出席（12/26）
東京都野生イノシシ CSF 対策協議会設立総会出席（1/23）
第 61 回東京都家畜保健衛生業績発表会審査員派遣（1/31）、
2020 年度予算編成に関するヒアリングのための小池都知事との面談※（11/13）
※小池都知事に対するプレゼンテーションについて
学校飼育動物や野生鳥獣の遺体検案及び埋葬事業における児童・都民への公衆衛生対策や情操育成への寄与と充実化の必要性、マイクロチップ装着率の推進対策、補助犬診療費助成による身体障がい者支援事業の重要性などの提案を行った。
- ウ. 日獣関係：第 76 回通常総会 6/25（明治記念館）出席、2018 年度全国獣医師会事務事業推進会議 7/12（明治記念館）出席、2019 動物感謝デー in JAPAN WORLD Veterinary Day（駒沢公園）10/5 参加及び動物救護所設置協力、2019 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 2/7～2/9（東京国際フォーラム）参加、日獣委託小動物臨床講習会 3/1（A P 渋谷道玄坂会議室）は、新型コロナウイルス感染症対策により中止
- エ. 関獣連関係：理事会・学会幹事会：第1回 4/14（千葉市）、第2回 7/21（千葉市）、第3回 2/16、監査会 2/16（千葉市）、関獣連大会・学会 10/27（幕張メッセ・千葉）に参加
 - ・2019 年獣医事功績者：太田 輝子（目黒支部）、小浜 是宗（北支部）、熊井 治孝（南多摩支部）、齋藤 正興（渋谷支部）、遠藤 正男（新宿支部）、島

田 悦治（武蔵野三鷹支部）、福井 正信（生物医学支部）、飯塚 武文（練馬支部）

・ 本会からの演題登録（敬称略）

＜日本産業動物獣医学会＞

①日本獣医生命科学大学 岩崎まりか

「乳牛の潜在性ルーメンアシドーシスにおける血中アディポネクチン濃度の評価」

②（公社）東京都農林水産振興財団 小山朗子

「トウキョウXの育成率向上を目的とした卵黄抗体の効果」

＜日本小動物獣医学会＞

①動物救急センター府中 大坂文也

「BioMedtrix BFX EBM 人工股関節全置換術を施術した犬の股関節形成不全 10 症例 12 関節」

②オールハート動物リファーマルセンター 池田人司

「レッグ・カルベ・ペルテス病に樋口式大腿骨頭回転骨切り術を適応し軟骨温存療法を実施した犬の 1 例」

③くすの木動物病院 藤井聖久

「両側性の膝蓋骨内方脱臼に前十字靱帯断裂を伴ったアビシニアン の 1 症例」

④小滝橋動物病院グループ 牧田裕里子

「横隔膜ヘルニアを整復した猫 5 症例の検討」

⑤苅谷動物病院グループ江東総合病院 林幸太郎

「犬の急性膀胱炎に対する各治療法の効果、予後についての検討」

⑥日本動物医療センター 仙波恵張

「献血時の鎮静下採血におけるアルファキサロンの再検討」

⑦ダクタリ動物病院、JOY 動物病院 九鬼正己

「犬の食道内異物の 15 例」

⑧（公社）東京都獣医師会、（特非）アニス 平井潤子

「大規模災害発生時の段階的ペットの保護環境（場所・施設等）に関する考察」

・ 学術奨励賞受賞

「乳牛の潜在性ルーメンアシドーシスにおける血中アディポネクチン濃度の評価」

（日本獣医生命科学大学 岩崎まりかさん）が同学会にて学術奨励賞を受賞

オ. 政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会：

11 月 3 日（日）、京都市獣医師会主催会議に参加

カ. 他府県獣医師会：

埼玉県獣医師会第 70 回定時総会出席 6/5

日本小動物獣医師会総会 5/26

キ. 畜産事業

公益社団法人中央畜産会：

2019 年度第 1 回中央打合会出席 4/12

2019 年度家畜防疫互助基金支援事業に係る中央推進会議出席 5/15

2019 馬飼養衛生管理特別対策事業全国事業推進会議出席 7/17

2019 年度家畜防疫・衛生指導対策事業全国会議出席 7/18

2020 年賀詞交換会出席 1/6

2019 年度第 2 回中央打合会出席 1/31

その他畜産関係：

東京都酪農業協同組合総会出席 6/21

東京都農業共済組合損害評価会出席 7/1, 3/3

豚コレラ関係緊急情報交換会（（一社）神奈川県畜産会主催）出席 10/6

豚コレラ防疫指針改正に係る関東農政局管内都県及び畜産関係生産者団体等との
意見交換会（関東農政局主催）出席 10/6

東京都酪農業協同組合賀詞交歓会出席 1/17

第 61 回東京都家畜保健衛生業績発表会出席 1/31

ク. その他：

第 21 回全国学校飼育動物研究大会出席 9/15

（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 パラリンピック
統括室 パラリンピック統括課 打ち合わせ 7/24

（3）国際交流関係： FASAVA2019 大会東京及び日本臨床獣医学フォーラム年次大会 2019
を 9/25-9/28 に実施した。

3. 催事、学術集会等の実施状況

ア. 学会、講習会等事業

5. 学校動物飼育対策推進事業 イ. 実施報告参照

12. 学会・講習会活動事業 実施報告参照

イ. 支部学術講習会の計画等：※日獣生涯研修申請分

12. 学会・講習会活動事業 （7）実施報告参照

4. 本会が後援等を行ったイベント・キャンペーン・講演会

【後援】

- ・LAV 臨床研究会・日本女性獣医師の会共催講演会「小笠原における自然保護、ノネコ対策等について」5/12（中野サンプラザ）
- ・認定特定非営利活動法人動物愛護社会科推進協会 第 23 回公開シンポジウム「aibo は人とペットの未来を変えるか？」5/25（弥生講堂一条ホール）
- ・第 166 回 JAHA 国際セミナー「検査データの先にあるもの～貧血、炎症 VS 腫瘍、血液凝固関連疾患の徹底理解と新概念」5/21-23（研究社英語センター）5/28-30（天満研修センター）
- ・第 167 回 JAHA 国際セミナー「治らない傷が治る！わかる・使える形成外科～なぜ？いつ？どうやって？結果に差が出る 3days」7/26-28（東京）7/30-8/1（大阪）
- ・第 168 回 JAHA 国際セミナー「日本人専門医から学ぶ胸部外科」12/18-19（東京）12/21-22（大阪）
- ・第 169 回 JAHA 国際セミナー「消化器病学」1/31-2/2（東京）2/4-6（大阪）

- ・第 170 回 JAHA 国際セミナー「画像診断学」3/6-8（大阪）3/10-12（東京）
- ・獣医アトピー・アレルギー・免疫学会「学会技能講習会及び抗体医薬」8/18（国際ファッションセンター）
- ・全国学校飼育動物研究会「第 21 回全国学校飼育動物研究大会」9/15（東大弥生講堂）
- ・一社）日本獣医麻酔外科学会「第 11 回整形外科シンポジウム 若手獣医師のための整形・神経外科症例検討会 with 達人セミナー」10/6（東京大学）
- ・一社）日本麻酔外科学会「痛みを断ち切る！知識と技術で克服する周術期疼痛管理」2/16（東京大学 弥生講堂）
- ・酪農学園大学動物薬教育研究センター（CVDD）学術セミナー 11/1（東京交通会館）
- ・特定非営利活動法人動物介在教育・療法学会 第 12 回学術大会 11/8-10（東京福祉大学）
- ・ペットとの共生推進協議会 第 8 回シンポジウム「ヒトとイヌの関係とその効果」11/17 東京大学
- ・日本獣医学会主催シンポジウム「食肉・食鳥肉検査における日本とアジア諸国の HACCP の現状」2/15（弥生講堂一条ホール）
- ・一社）日本アニマルピック委員会「Animal World Cup 2020 in Tokyo～チャリティ～ 2020/4/17-19（国営昭和記念公園）※新型コロナウイルス感染症対策により中止
- ・一社）人とペットの幸せ創造協会「動物福祉チャリティーシンポジウム&コンサート with Dinner Party -人とペットの真の共生に向けて-」R2 年 4/26（KKR HOTEL 東京）※新型コロナウイルス感染症対策により中止

【協賛】

- ・特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会「ヒナを拾わないで」キャンペーン 2019.4 月-2020.3 月
- ・一社）ペットフード協会・一社）日本ペット用品工業会・メッセフランクフルト ジャパン(株)主催「第 9 回インターペット～人とペットの豊かな暮らしフェア～」2020 年 3/29-4/1 ※新型コロナウイルス感染症対策により中止

【協力】

- ・日本獣医生命科学大学研究事業「加齢性動物疾病の先制医療拠点の構築プロジェクト」への協力
- ・特定非営利活動法人獣医系大学間獣医学教育支援機構への協力

5. 表彰等

本会 70 周年記念式典において、本会会員 89 名、賛助会員及び協力企業 25 社が、東京都、日本獣医師会、東京都獣医師会から表彰された。

※賞ごとに五十音順

賞	氏名	支部
都知事賞	村中 志朗	中央支部
都知事感謝状（産業労働局）	大久保忠宜	共済支部
都産業労働局長感謝状	秋元 武文	中央支部
	伊藤 衛	勝島支部
	加藤 元	杉並支部
	香西 解夫	町田支部
	小暮 規夫	文京支部
	清水 誠	北多摩支部
	鈴木 博	都産労支部
	高橋 一	世田谷支部
	丹治 藤治	動薬事支部
	松尾 克徳	世田谷支部
都知事感謝状（福祉保健局）	池本 卯典	日獣大支部
都福祉保健局長感謝状	池田 忠生	生物医学支部
	石田 卓夫	中央支部
	植田富貴子	日獣大支部
	工藤 莊六	中野支部
	佐藤 克	板橋支部
	四宮 勝之	都公衆支部
	白井 淳資	農工大支部
	助川 良吉	渋谷支部
	平見 博	練馬支部
	山本 茂貴	生物医学支部
都知事感謝状（環境局）	郷野 栞	かんらん支部
都環境局長感謝状	朝倉 通彦	品川支部
	青木 貢一	町田支部
	天野 芳二	世田谷支部
	磯 洋一	足立支部
	伊東 秀行	葛飾支部
	奥山 幸子	中央支部
	成島 悦雄	かんらん支部
	益田 矩之	多摩東支部
	安田 辰巳	江戸川支部
	山口千津子	かんらん支部

※賞ごとに五十音順

賞	氏名	支部
日本獣医師会会長表彰	伊藤 宏	世田谷支部
	須田 沖夫	南多摩支部
	田部 久雄	世田谷支部
	広瀬美知子	杉並支部
	渡邊 正富	八王子支部
日本獣医師会会長感謝状	池田 冬美	品川支部
	伊藤 正	杉並支部
	大村 知之	武蔵野三鷹支部
	佐伯 良重	練馬支部
	櫻井富士朗	江戸川支部
	杉本 恵子	江戸川支部
	野澤 延行	城北支部
	幅田 慶子	目黒支部
	平山 紀夫	かんらん支部
	楨野 照夫	足立支部
	吉田 義夫	都公衆支部
	吉村 武明	品川支部
東京都獣医師会会長表彰	岩城 隆昌	生物医学支部
	浦野 岩雄	多摩西支部
	大谷 裕子	世田谷支部
	岸野 寛	多摩西支部
	小平 晃央	目黒支部
	左向 敏紀	日獣大支部
	下澤 章夫	多摩西支部
	福田 一郎	練馬支部
	古谷 隆俊	品川支部
	町井 研士	生物医学支部
	三科 保	豊島支部
	武藤 雄二	八王子支部
	矢口由紀子	かんらん支部
	山下 征洋	都公衆支部
	渡邊 守都	北多摩支部
東京都獣医師会会長感謝状	植松 一良	多摩西支部
	岸野 寛	多摩西支部
	菅又 恒子	北多摩支部
	高橋 恒彦	新宿支部

賞	氏名	支部
東京都獣医師会会長感謝状	中川 清志	北多摩支部
	野村 治	多摩西支部
	古谷 隆俊	品川支部
	池上 敦	葛飾支部
	石井 貴	文京支部
	大窪 武彦	南多摩支部
	大平晃一郎	足立支部
	北村 重宗	品川支部
	久山 昌之	豊島支部
	佐藤 志伸	町田支部
	関 淳生	多摩西支部
	土田 良平	渋谷支部
	中西 章男	杉並支部
	中村 泰治	新宿支部
	中山 功二	世田谷支部
	南雲 映二	大田支部
	鍋島 享	葛飾支部
	増田 寿子	葛飾支部
	山田 武喜	墨田支部
	山本 博史	八王子支部
	鎗 雄一	文京支部

賛助会員・協力企業様

※五十音順

賞	社 名
東京都獣医師会会長感謝状	アコマ医科工業株式会社
	アニコム損害保険株式会社
	株式会社インターズー
	小笠原海運株式会社
	共立製薬株式会社
	株式会社キリカン洋行
	株式会社クレディセゾン
	サンアイビス株式会社
	三幸医化学薬品株式会社
	学校法人シモゾノ学園
	新日本カレンダー株式会社 ペピイ事業部
	千寿製薬株式会社
	税理士法人千代田経営会計事務所

賞	社 名
東京都獣医師会会長感謝状	日本医療株式会社
	日本光電工業株式会社 首都圏G P支店
	日本全薬工業株式会社
	日本ヒルズコルゲート株式会
	日本ビスカ株式会社
	フクダエム・イー工業株式会社
	富士フィルムメディカル株式会社
	富士フィルムモノリス株式会社
	弁護士法人フラクタル法律事務所
	マースジャパンリミテッド ペット専門店事業部
	森久保薬品株式会社
	学校法人ヤマザキ学園

6. その他

(1) 組織率の向上

- 1) 東獣`19 イヤーズカンファレンス 12/8 (日) をホテルルポール麹町にて開催した後に懇親会を実施し、執行部と会員、賛助会員とが近しく意見交換を行う場を提供し組織充実に努めた。
- 2) 会員へのタイムリーな情報提供と情報収集のツールとして、東獣会員専用サイトを構築し、各種割引制度、福利厚生制度等会員特典情報を提供した。
- 3) 敬老の日を祝して、対象会員に対してお祝い品 (Quo カード) を贈呈した。
- 4) 本会案内パンフをもって広報すると共に、他の関連組織への訪問や講習会等への参加を勧誘して加入促進に努めた。

(2) その他事業

- 1) 本会作成の印刷物 (防災 BOOK・証明書等) を頒布した。
また、会員の利便性を考慮し、予防接種証明書など様式のインターネット販売を開始した。
- 2) 保険加入斡旋などの事務手続きによる収入を得た。
- 3) 賛助会員関連
 - ・株式会社ティ・アイ・コンソーシア
 2018 年度に実施したドイツオランダ視察ツアーについては、単に海外の施設を視察することを目的とせず、現地獣医科大学や動物保護のための獣医師会へのヒアリングを行い、日本オリジナルの思想を構築するにあたってのエビデンスを得るための情報収集の機会となった。同ツアーへの参加者及び報告会参加者から継続実施の要望があったことから、東獣・賛助会員コラボ企画の一つとして同社による「香港視察ツアー」を本会にて監修することとしたが、香港の情勢悪化に伴い、中止とした。

- ・損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社
 本会会員に向けた福利厚生事業の一環として、資産運用や奥様向けマナー講座、相続、事業継承対策講座を本会主催で計画し、本会は広報に協力した。
 会員向け講座 8月28日（水） 参加登録者5名
 奥様向け講座 10月1日（火）、10月8日（火）、10月15日（火）、
 10月29日（火） 参加登録者各6名
- ・全日本空輸 株式会社
 航空機でのペット輸送時の取扱いの規定検討に関する相談に対応するため、羽田空港を視察し、飼い主からの預り手続きから輸送時の逸走対策などについて、有識者ととともに助言を行った。
- ・JTB株式会社
 パラリンピック観戦ツアーを企画、155名(36件)の申し込みを得たが、新型コロナウイルス感染症流行により、2020東京オリンピック・パラリンピックの開催が2021年に延期され、本ツアーも延期することとなった。

（３）会員名簿の作成

2019年度は実施していない

（４）規程類の改定

1）公益社団法人東京都獣医師会定款施行細則の一部修正（第1回理事会）

第2章 会員 第4条 1項

この法人の正会員又は賛助会員になろうとする個人又は団体は、理事会が別に定める入会申込書により、正会員にあっては獣医師免許証の写しを添付して、この法人に提出しなければならない。

第2章 会員 第4条 3項

理事会は、第2条の要件に該当し、第3条の欠格事由に該当しないと認めるときは、入会を承認し、第2条の要件を欠き、又は第3条の欠格事由に該当する疑いがあると認めるときは、入会の可否につき、理事会の審議により決議するものとする。

2）公益社団法人東京都獣医師会定款施行細則の一部修正（第1回理事会）

第7章 資産及び会計 第20条 4項

特定資産は、安全且つ確実な方法で運用する。なお、特定資産の運用により生じた利益は、第2項の規定に拘わらず、特定資産受取利息へ繰り入れるものとする。

3）「公益社団法人東京都獣医師会理事の報酬等に関する規程」の一部修正（第1回理事会）

第3条 2項

報酬等のうち、常勤理事の報酬は、月額報酬、非常勤理事の報酬は、会議出席の都度の日当とする。但し、非常勤理事のうち、代表理事である会長及び執行理事である副会長、並びに業務執行理事の報酬は、月額報酬とする。

- 4) 「公益社団法人東京都獣医師会役員選任規程」の一部修正（第8回総会）
 - ①役員候補者選任選挙を廃止し候補者全てを総会議案とし総会での議決とする
 - ②総会に欠席する場合、委任状だけでなく書面による議決権行使を併用する
- 5) 「公益社団法人東京都獣医師会旅費規程」の一部修正（第5回理事会）

第6条 2項

用務地が東京都内である近地出張の場合は、交通所要時間並びに調整時間等は適用せず、交通費の実費及び委託費を支給する」の後段に、「ただし、国、東京都、関係団体等の補助事業または委託事業の執行のための出張については、当該補助事業の補助金交付要綱等において定められた旅費・日当の支給基準により支給することができる。」と追加した。

(5) その他

- 1) 2019年11月20日（水）、21日（木）の2日間にわたり、麻布税務署法人課税第四部門による税務調査が行われた。
帳票類の管理等に関し、若干の指導があったものの、本会の税務管理に関しては、概ね良好であるとの評価を得た。
- 2) 本会総会の欠席会員に対し、委任状参加に加え、書面による議決権行使の方法を選ぶことができるよう、様式の検討が行われ、第9回定時総会から実施することとなった。
- 3) 本会創立70周年記念事業の開催
2019年6月23日（日）、都市センターホテル（東京都千代田区平河町）3階のコスモスホールにおいて開催した創立70周年記念式典には、来賓、表彰者の他、本会会員、賛助会員等270名を超える出席者を得て、盛況のうちに終了した。70周年記念誌1,500冊を作成し、記念式典来賓に贈呈した他、ジャーナル7月号に同梱し、本会会員及び賛助会員、地方獣医師会に贈呈した。

7. 本会組織の会員状況

2019 年度末会員数は、A 会員名 631 名、B 会員 450 名、計 1,081 名である。
年度内の入会は 39 名、退会 84 名（逝去 10 名含）、長寿会員 56 名（年度末の実績）のうち、会費免除高齢会員 55 名であった。（会員の内訳は表参照）

地域	A 会員			B 会員			計		
支部	2019年度 会員数	2018年度 会員数	差異	2019年度 会員数	2018年度 会員数	差異	2019年度 会員数	2018年度 会員数	差異
中 央	27	27	0	11	13	△ 2	38	40	△ 2
文 京	16	15	1	4	6	△ 2	20	21	△ 1
新 宿	16	16	0	6	5	1	22	21	1
中 野	16	18	△ 2	2	1	1	18	19	△ 1
杉 並	39	37	2	9	12	△ 3	48	49	△ 1
世田谷	59	59	0	38	39	△ 1	97	98	△ 1
洪 谷	7	8	△ 1	1	2	△ 1	8	10	△ 2
目 黒	25	27	△ 2	6	6	0	31	33	△ 2
大 田	42	45	△ 3	17	17	0	59	62	△ 3
品 川	20	21	△ 1	4	5	△ 1	24	26	△ 2
勝 島	9	12	△ 3	3	0	3	12	12	0
江 東	20	19	1	4	6	△ 2	24	25	△ 1
墨 田	18	18	0	1	1	0	19	19	0
城 北	18	20	△ 2	1	1	0	19	21	△ 2
葛 飾	20	21	△ 1	1	1	0	21	22	△ 1
江戸川	21	24	△ 3	7	8	△ 1	28	32	△ 4
足 立	17	20	△ 3	0	0	0	17	20	△ 3
北	13	16	△ 3	0	0	0	13	16	△ 3
豊 島	13	14	△ 1	1	1	0	14	15	△ 1
板 橋	17	18	△ 1	3	3	0	20	21	△ 1
練 馬	36	35	1	7	8	△ 1	43	43	0
武蔵野三鷹	13	15	△ 2	2	2	0	15	17	△ 2
北多摩	34	34	0	3	4	△ 1	37	38	△ 1
多摩東	24	24	0	3	5	△ 2	27	29	△ 2
南多摩	13	15	△ 2	3	4	△ 1	16	19	△ 3
八王子	20	20	0	1	1	0	21	21	0
町 田	18	18	0	1	0	1	19	18	1
多摩西	40	39	1	4	4	0	44	43	1
小 計	631	655	△ 24	143	155	△ 12	774	810	△ 36

職域	B 会員		
支部	2019年度 会員数	2018年度 会員数	差異
農水省	3	3	0
動薬検	0	0	0
都産労	7	7	0
都公衆衛生	26	30	△ 4
東 大	15	15	0
農工大	16	16	0
日獣大	31	32	△ 1
生物医学	22	24	△ 2
日生研	7	7	0
松 研	2	2	0
中央競馬	3	3	0
共 済	10	10	0
動物薬事	34	36	△ 2
かんらん	131	131	0
小 計	307	316	△ 9
B 会員計	450	471	△ 21

令和元年度 会員数	A 会員	B 会員	合計
	631	450	1081

東京都獣医師会総会員数			
	2019年度 会員数	2018年度 会員数	差異
総計	1081	1126	△ 45

Ⅱ 事業実施報告

※令和元年度（2019 年度）会務報告は途中で元号が変わったため、西暦で統一表記しています。

I. 公益目的事業

1. 都民公開シンポジウム開催事業

2019 年度は実施していない。

2. 狂犬病予防対策推進事業

昨年に引き続き、狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。2019 年度においては84,147頭の実績となった。（前年比▲3.5%、平成26年度から19,747頭減少）また、狂犬病予防に関する知識の普及・啓発事業を推進し、狂犬病の発生及びまん延、拡大の阻止を図り、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

2-ア. 都民に対する狂犬病に関するの情報提供と周知；

平成 26 年度に本会が制作した動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性に対する啓発活動を継続実施した。

都内での狂犬病発生を想定した 2019 年度狂犬病発生時対応訓練（東京都主催）に参加した。

日 時：2019年11月15日（金）14：00～16：30

場 所：東京都動物愛護相談センター多摩支所 会議室

内 容：狂犬病発生時対応訓練

参加者：町田市保健所

福祉保健局健康安全部環境保健衛生課動物管理担当

動物愛護相談センター

本会副会長、本会危機管理室感染症対策セクション長、

本会町田支部 狂犬病担当者、本会南多摩支部 狂犬病担当者

2-イ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において狂犬病に関するポスターを活用して犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に密着した啓発活動に取り組んだ。

2-ウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病に対する意識向上、狂犬病の臨床診断能力の向上及び狂犬病に関連する法規の再確認を行うため、獣医師を対象に講習会並びに狂犬病支部担当者会議を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の予防及び防止のため、開催を中止した。昨年度日本獣医師会小動物臨床講習会を開催した際、診断書の書式について雛形となるものを提示するようご要望があったため、狂犬病対策委員会では本年度の小

動物臨床講習会で診断時の注意点等を提示する予定で準備を進めていた。各支部においてどのような書式で発行しているかアンケート調査を行った後、本会顧問弁護士の法的な助言のもと雛形となる診断書を作成したが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大が懸念されていたことから講習会が中止となったため、雛形と共に注意点や参考資料をまとめ、支部と本会HPを通じて周知した。

2-エ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

27の地域支部において、狂犬病予防定期集合注射の安定的な実施及び注射済票交付を実施し、狂犬病予防注射の接種率向上に努めるとともに、法による犬の登録の受付を代行するなどして、飼い犬の登録率を向上させるよう努めた。

本部においては、獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」への加入をとりまとめ、支部による狂犬病予防定期集合注射事業の実施を補佐した。

また、狂犬病予防注射離島対策事業として、島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

2019年度は実施していない。

3. 災害時の動物救護支援に関する事業

本会内には災害、人畜共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。

各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

3-ア. 危機管理・災害対策事業；

東京都との協定に基づき、災害時における被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的かつ速やかに実施するために、本部及び、支部において、都及び市区町村で開催する防災担当者会議等に積極的に参加し、ガイドラインやマニュアルの整備など、動物救護の仕組み作りの検討に協力した。

また、2019年度東京都・多摩市総合防災訓練（多摩市多摩センター駅、多摩中央公園周辺・9/1）に地元の南多摩支部とともに参加し、ブースにおける防災用品やパネル展示、印刷物の配布、マイクロチップ挿入のデモンストレーション等により都民に対して、動物を飼育する上での災害対策についての知識の普及啓発を行った。

平時においては、有事を想定して、本会独自の安否確認システムにより9月1日と3月11日に会員の安否確認訓練を実施した。

9月1日は、AM11：00に安否確認システム登録会員602件に発報、254件の回答があり、未返信207件、不達141件であった。回答があった254件のうち62%にあたる159件は発報から1時間以内に回答を得た。

3月11日は、AM8：30に安否確認システム登録会員605件に発報、249件の回答があり、未返信224件、不達132件であった。回答があった249件のうち67%にあたる169件は発報から1時間以内に回答を得た。

この安否確認メール未達対策のため毎月15日にテスト送信を実施し、問題解決を図った。

防災ブロック長会議を開催し、情報共有を図るほか、東京VMATの設置について検討した。

災害対策の普及啓発ツールとして、「災害対策啓発パネル（熊本地震に学ぶ）」や講演用スライドを地域支部に提供した。

台風19号発生に伴い、会員へ安否確認を行った。

2019年10月13日AM8：00に安否確認システム登録会員604件に発報、346件の回答があり、未返信164件、不達94件であった。また、被害ありとの回答者に対して状況確認を行った。

2019年9月～10月に発生した台風被害について、「令和元年台風15・19・21号等災害動物救護活等支援金」を募集し、9件、計304,000円の支援金が入金され、本会からの支援金と合わせて計404,000円を、日本獣医師会を通じて被災地獣医師会へ寄付した。

3-イ．危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ対策情報や発生情報等を都度発信し、公衆衛生対策の向上及び公共の健康福祉増進に寄与した。

2019年12月に発生が確認され、その後日本においても流行が拡大した新型コロナウイルス感染症について、感染症対策セクションがただちに対応を開始し、有識者との連携による正しい情報発信に努め、不確実な情報の拡散による飼主のパニックを抑えるとともに、執行部との連携により本会会員への適切な対処法や政府から発信される情報を提供することにより、臨床獣医師による感染対策に貢献することができた。

またこれらの情報は、全国の獣医師会、都道府県行政、基礎自治体にも公開した。

Facebook、Twitter、HPによる情報は、海外にも届き、環境省、農林水産省等行政や、民間企業、業界団体からの引用やリンク依頼に対応するとともに、マスコミからの取材にも積極的に応じ、正しい情報を取捨選択することと、冷静な対応を社会に対し呼びかけることができた。

本会が発信した、一連の情報を以下に記す。

【一般向け情報】

- ①2020.02.28：香港でのPCR検査で、低いレベルの 新型コロナウイルスが犬から検出された報道について
- ②2020.03.05：香港ペット新型コロナ感染に関する見解

- ③2020. 03. 16ver : コロナQ&A
- ④2020. 03. 27ver : コロナQ&A.
- ⑤2020. 03. 28ver : コロナQ&A.

【会員向け発信情報】

- ①2020. 01. 28 : 新型コロナウイルスに関連した感染症への対応について
- ②2020. 02. 20 : 新型コロナウイルスに対する本会の対応について
- ③2020. 02. 20_1 : 新型コロナウイルスについて (WSAVA)
- ④2020. 02. 20_2 : WSAVA Scientific and One Health Committees.pdf>
- ⑤2020. 02. 28 : 新型コロナウイルスについて (休校中の学校動物について)
- ⑥2020. 02. 28_1 : 新型コロナウイルスについて (香港でのPCR検査で、新型コロナウイルスが犬から検出された報道について)
- ⑦2020. 03. 02 : 日本獣医師会事務連絡 (令和2年度における狂犬病予防注射の実施について) 施行
- ⑧2020. 03. 02_1 : R2狂注集合注射の延期について
- ⑨2020. 03. 03 : 新型コロナ流行に関する支部からの質問_回答
- ⑩2020. 03. 03 : 新型コロナ流行に関連する狂犬病予防定期集合注射について厚労省からの回答
- ⑪2020. 03. 05 : 新型コロナ流行に関する追加情報と支部からの質問_
- ⑫2020. 03. 25_1 : 動物病院での職場対応について
- ⑬2020. 03. 25_2 : 外出禁止令 (首都圏の封鎖) が出された際の動物病院の対応について
- ⑭2020. 03. 30 : 会員病院コロナ対策ポスター
- ⑮2020. 03. 30 : 新型コロナウイルス関連サポート情報

このほか、感染症対策セクションより以下の情報について支部長を経由した連絡、及び本会SNS情報伝達ツール登録者へ周知し注意喚起を図った。

- ・台風19号により被災した家屋での感染症対策について
10/13付支部長連絡 被災した家屋での感染症対策
- ・重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) に関わる最新情報
11/15付支部長連絡 ネコ・イヌでの発生状況 (2019年9月30日) 等

4. 獣医公衆衛生対策推進事業

4 - ア. 動物由来感染症モニタリング事業

東京都の委託を受け、人と動物の共通感染症の定点把握を継続実施した。以下に挙げる疾患については、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取し調査した。①皮膚糸状菌症 ②疥癬 ③回虫症 ④ジアルジア症 ⑤瓜実条虫症 ⑥犬糸状虫症 ⑦犬ブルセラ症 (犬のみ) ⑧トキソプラズマ症 (猫のみ)

また、人と動物の共通感染症として重要なコリネバクテリウム・ウルセランスについても、風邪の症状を呈し来院したイヌ、ネコを対象とし、会員病院6施設の協力のもと調査した。いずれの調査においても、動物の所有者に対しては十分な説明及び同意を得た上、検査を実施した。コリネバクテリウム・ウルセランスの調査実施に当たっては富士フイルムVETシステムズ株式会社の協力を得た。

4-イ. 人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業

所轄官庁から発信される人と動物の共通感染症及び食の安全対策に関わる公示・通達等を、本会ウェブサイト、東獣ジャーナルで広報した。

また、平成30年度から新たに「人と動物の共通感染症ガイドライン Web 版」を本会ホームページ上に作成、公開し、人と動物の共通感染症38種類の概要を平易に解説するとともに、他の有益なサイトへのリンクやスマートフォンでも閲覧可能にするなど利便性を図っている。本年度は日本脳炎等12項目(感染症)について新規掲載又は記載内容の更新を行った。

5. 学校動物飼育対策推進事業

小学校学習指導要領に則り実施される教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、及び動物愛護精神の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に実施されるよう努め、以下の事業を行った。

5-ア. 学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学習指導要領解説にあるように、児童が学校飼育動物に心を寄せ、愛着を持って接するとともに、生命あるものとして世話することができる飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を支部委託事業として都内全域において行った。

支部を通じて依頼のあった学校及び教育委員会に対し本会から講師を派遣した。

講師派遣により、感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導や児童や教員に対する講習会を開催することで学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる支部担当者間の情報の交換と提供に努めた。

東京都教育庁地域教育支援部の依頼により学校における動物飼育に関する研修会に係るグループ討議担当講師を派遣した。

区部会場 7/23 (火) 東京都教職員研修センター 40名

多摩会場 8/1 (木) 東京都立多摩図書館セミナールーム 20名

5-イ. 学校獣医師養成講座；

全国の担当者と意見交換を行い、知識などの向上のため日本獣医師会の動物福祉・愛護部会 個別委員会学校動物飼育支援対策検討委員会及び動物福祉・愛護部

会 学校動物飼育支援対策検討委員会に参加した。

獣医師向け「学校飼育動物 獣医師養成講座」を開催し、全3回受講した獣医師40名に対して修了証を発行した。

第3回開催時はCOVID-19の感染拡大を受け、懇親会を中止する等の対応を行った。参加した獣医師からは「行政や教員からの話も聞くことが出来て参考になった。」「子どもたちに説明できる自信が付いた。」などの感想があった。

2月28日、支部長向け連絡により、休校中の学校飼育動物の適正な管理について通知した。

【内 容】

開催日：第1回 7月21日（日）、第2回 11月10日（日）、第3回 2月23日（日）

場 所：アニコムホールディングス株式会社 会議室

参加者：第1回 92名（内非会員32名）、第2回 65名（内非会員18名）、第3回 53名（内非会員16名）

講師：第1回目

総論：渋谷一典（文部科学省 初等中等教育局教育課程課教科調査官）

「学校飼育動物がもたらす教育的価値と新学習指導要領」

各論：田向健一（大田支部）

「ウサギについて」

第2回目

総論：庭野正和（武蔵野大学客員教授、全国学校飼育動物研究会副会長）

「学校飼育動物活動に期待される効果」

各論：小嶋篤史（世田谷支部）

「チャボについて」

第3回目

総論：茂呂美恵子（大田区立田園調布小学校長）

「小学校で動物を飼うことの意味と教育方針」

各論：田向健一（大田支部）

「モルモットについて」

5-ウ. 動物飼育作文コンクール；

支部事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを行い、その優秀作品を表彰した。

日 時：2019年9月25日（水） 品川区第三庁舎6階講堂

テーマ：第37回動物愛護作文コンクール（品川支部主催）

内 容：応募点数 148

小学5年生 入選 10点 佳作 10点

小学6年生 入選 10点 佳作 10点

表彰者：40名 出席者：40名

本会役員出席：安田副会長

5-エ. 小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、会員獣医師20名を動員し、都内5つの推進校において①衛生管理指導 ②体験活動事業 ③研修会事業 ④動物由来感染症発生時対応事業 ⑤埋葬事業を実施した。また、事業の適正な推進と発展のため、課題の抽出や今後の対策の検討を行うとともに、活動報告会を開催し次年度事業への礎とした。

5-オ. 学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、220件の学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院で検案実施後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき適切な埋葬をおこなった。

以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校及び児童が身をもって生命の尊さを感じる事ができるよう支援した。

6. 動物愛護啓発事業

6-ア. 催事における啓発事業；

日本獣医師会が主催する 2019 動物感謝デー10月5日（土）（駒沢オリンピック公園）に参加し、小笠原自然環境保護活動に関連する啓発活動、災害時の動物救援、同行避難活動事業などについてブース出展を行った。

また、近隣開業会員の協力を得てイベントに同伴されるペットのための動物救護所を担当した。

公益社団法人東京都獣医師会世田谷支部と世田谷区が主催した「世田谷区動物フェスティバル」（2019年11月3日（日））にブース出展し、災害時の動物救援、同行避難活動事業、小笠原自然環境保護事業などについてパネル展示やパンフレットの配布を行った。

「動物のいのち救済基金」における高齢者の動物飼育に対する支援事業として、「あなたとペット・合わせて何歳？」と題し、飼い主とペットの年齢が合わせて80歳以上になれる方を対象に、3,000円分の特別診療券を世田谷区動物フェスティバル会場で20件配布した。

また、高齢者が継続して動物を飼育できる環境整備に協力すべく、「高齢者の動物飼育支援システム（仮称：高齢飼育者サポートネット）」の実施に向けて、会員にアンケートを実施し有志病院の登録を完了した。

2020年1月18日（土）、19日（日）に開催を予定していた「第4回世田谷フラ・フェスティバル」については会場の関係で中止となった。

適正飼育支援の一環として15歳以上の犬猫を対象とした長寿犬・長寿猫表彰を行った。結果、76病院、1148件の申し込みがあった。

表彰状受賞者によるSNS上への投稿が見られた他、飼い主から表彰に関する問い合わせもあり、適正飼養の啓発への一定の効果が得られた。

『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として作成したペット防災袋とペット防災 BOOK を、本部あるいは支部の普及啓発イベントや防災訓練などで販売した他、インターネットにて継続して販売を行った。

動物のいのち救済基金に関する活動報告を行っているサポーターミーティングについて、「第 5 回サポーターミーティング」(3/4) の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大が懸念され始めていたことから中止となった。当日配布を予定していた資料についてはホームページに掲載して情報提供を行うこととした。

2019 年度『動物のいのち救済基金』募金総額は 1,376,101 円(総計 71 件)となった。

6-イ. ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業;

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、飼い猫や飼い主がいない猫の不妊去勢手術を実施した。

7. 医療廃棄物等適正処理活動事業

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会」2/8(東京都医師会館)開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

8. 身体障がい者支援活動事業

東京都福祉保健局と協力し身体障がい者を支援する目的で、動物診療施設等の協力を得て「ひかりの箱」募金活動を推進した。

東京都福祉保健局を介して、身体障がい者補助犬使用者に対し、身体障がい者補助犬診療券の交付を行い、補助犬の健康管理等の診察支援を行った。盲導犬、聴導犬、介助犬の増加に伴い利用者数が増加したことから、2019 年度からは 1 頭につき 2 万円の診療券 150 頭分の交付とした。

2019 年度(2020 年 3/31 現在)では、約 2,051,872 万円の募金額を得て、身体障がい者補助犬診療費の一部に充当した。

9. 夜間診療活動及びマネジメント事業

夜間に状態が急変するなどしたペットの飼育者が本会ホームページの掲載情報により、電話相談や受診ができるよう、夜間診療対象動物病院の情報掲載と電話アナウンスによる飼育支援を行った。

10. 小笠原自然環境保護活動事業

小笠原諸島は、現地に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、ノネ

コ保護、獣医師派遣事業等を行ってきた。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは 40 羽だった生息数が少なくとも 500 羽を超えたことが確認されており、順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも巣立ちが確認され、地道な取り組みが功を奏していることが確認された。2019 年度は、台風 21 号が小笠原諸島を襲い、大きな被害を出した。保護対象動物である母島南崎の営巣地に於けるカツオドリは、台風襲来前に巣立ちが終わっており影響を受けなかった。同様にオナガミズナギドリは巣穴に入っているため影響を受けなかった。アカガシラカラスバトは、父島、母島、弟島においては、餌となる植物が大きな被害を受けたため、一時的に見られなくなった。兄島については、固有植物であるシマイスノキが 11 月から 1 月にかけて多数実を付けたため、アカガシラカラスバトの減少は見られなかった。一時的に見られなくなった父島、母島、弟島についても 3 月頃から観察数が増えてきている。個体群全体への影響評価は 2020 年度夏まで待たなければならないが、本事業により生息数が大きく増加していたことが、台風により未曾有の被害を受けても個体群が絶滅しなかった一つの要因と考える事ができる。

10ーア．保護されたノネコの保護活動事業；

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した(2019 年度 66 頭、累計捕獲頭数 951 頭うち都内搬送頭数 849 頭)。

新規受け入れ病院を確保するため、本事業の広報に努め、小笠原自然保護官事務所からの小笠原ネコプロジェクトに関するメーリングリスト加入依頼に協力するとともに、島内譲渡促進やペット条例の制定に向けての検討に協力した。

10ーイ．小笠原諸島現地視察活動事業；

本年度は実施していない。

10ーウ．シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業；

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

また、一般財団法人ちよだニャンとなる会および千代田区共催チャリティイベント「ちよだ猫まつり 2020」が 2020 年 2 月 15 日（土）、2 月 16 日（日）の両日に開催され、ブース出展にて本会活動の有用性及び重要性の広報を行った。

開催日時：2020 年 2 月 15 日（土）11：00～18：00／16 日（日）10：00～17：00

開催場所：千代田区役所 1 階、4 階

来場者数：2 日間延べ 15,000 人

いのちの救済基金募金額(2 日間)：63,243 円

11. 傷病野生鳥獣保護活動事業

東京都の委託を受け、都民によって持ち込まれた傷病野生鳥獣を救護、施療活動を実施し、当該治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

これらの件数は 381 件であった。一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等 79 件については、動物の命の大切さから、保護、治療を本会からの助成により実施した。

また、治療後死亡した 175 件については、会員病院での検案の後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との協定に基づき埋葬した。

さらに、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

12. 学会・講習会活動事業

獣医師として最新の専門技術と知識や情報を得ることで研鑽を払い、常に適切なる獣医療の提供に努めていかなければならないことから、次の学会、講習会、研究検討活動等を実施した。本年度は、獣医師育成対策事業（都委託）において小動物獣医療に関わる獣医療トラブルの未然防止と適切な獣医療の提供、臨床現場における危機管理対応能力の向上等を目的とした講習会を行った。獣医公衆衛生学術講習会（都補助）においては、「伴侶動物医療における薬剤耐性菌の現状と対策」を開催した。（４）、

（５）の講習会については、東獣`19 イヤーズカンファレンスと題して、同時開催の形式をとった。

- （１）三学会活動；関東・東京地区合同獣医師会大会・学会活動を通じて、技術と知識の研鑽に努めた。
- （２）学術国際交流活動；一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム（以下 JBVP）と連携し、小動物を対象とした獣医師による研究や実績をアジア地域にて共有することを目的とする国際大会「FASAVA-TOKYO2019」をホテルニューオータニにて開催し、知識と技術の研鑽に努めた。FASAVA の東京開催が内定した 2015 年から、情報収集、開催を請け負う一般社団法人の設立、組織委員会設置を経て、開催当日までの 4 年間、複数回の海外での PR 活動を含め、広範囲な広報活動を行ってきた。結果として、海外から 1000 名弱というこれまでに類を見ない多数の参加者をお迎えすることができた。開催国である日本国内の参加者も JBVP 年次大会に合わせて開催したことにより例年の FASAVA 大会よりも多く、国内で開催される伴侶動物医療の国際学会としては、過去最大規模の大会になった。そして、40 名に及ぶ海外講師を招聘し一流の学術講義を揃えたことで、どの講義室も比較的若く熱心な参加者であふれ、活況を呈していた。また、夜には国際学会を象徴するガラディナーを明治記念館で開催した事をはじめ、各種パーティーも連日開催され、海外の獣医師・獣医師会との貴重な交流の場となった。

開催期日：2019年9月25日(水)～9月29日(日)

開催場所：ホテルニューオータニ東京（東京都千代田区紀尾井町4-1）

大会・学会参加者数：獣医師 2,981名、VN・トリマー 1,444名、学生 591名
企業展示のみ参加 141名、市民 69名 計 5,226名内、
東獣会員事前登録 87名、部屋担当者 22名、
役員・関係者 15名

協賛企業・協力団体 2,100名、プレス取材参加者数 62名

出展ブース数 180ブース（企業・団体）

スポンサー196社（企業・団体）内、

プライムスポンサー 1社、プラチナスポンサー 6社、

ゴールドスポンサー 4社、シルバースポンサー 2社

小口協賛5社7口

- (3) 日本獣医師会による講習会；日本獣医師会と連携し、小動物臨床分野に関する学術講習会をA P渋谷道玄坂会議室にて（3/1）開催する準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大が懸念されていたことから中止となった。

- (4) 東京都委託事業による講習会；東京都委託の獣医師育成対策の一環とし、講習会を開催した。

日 時：2019年12月8日（日）13:00～15:00 <120分>

会 場：ホテルルポール麹町（東京都千代田区平河町2-4-3）

内 容：「データからみる 獣医療トラブル・回避のポイント」

講師 フラクタル法律事務所 弁護士 田村勇人（たむら はやと）

弁護士 堀井亜生（ほりい あおい）

「SNS トラブルの実例と対策」

講師 フラクタル法律事務所 弁護士 長島 功（ながしま いさお）

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師等 51名

- (5) 東京都補助事業による講習会；

講習会名：獣医公衆衛生学術講習会

日 時：2019年12月8日（日）15:15～17:15 <120分>

会 場：ホテルルポール麹町（東京都千代田区平河町2-4-3）

テーマ：第1部 SFTS ウイルスから獣医療関係者を守れ！

講 師：前田 健先生（国立感染症研究所）

第2部 感染から自身を守る、正しい個人用保護具の着脱法

講 師：堀田 明豊先生（国立感染症研究所）

参加者： 47名 本会会員37名 非会員10名

(6) 学術情報提供；

都委託獣医師育成事業による講習会及びの映像資料等を制作し、獣医師限定のサイト上に公開した。

(7) 支部学術講習会；

支部が実施する学術講習会をもって、継続した生涯教育の充実と地域学術振興の活性化に努めていくこととした。

2019 年度実績は以下の通りである。※日獣生涯研修申請分

品川支部・大田支部・中央支部合同学術講習会 11/10（日）14：00～17：00

「『MMVD の最新アップデート』～内科と外科～」講師：水野祐先生

「循環器救急 ピモベンダンとともに」講師：杉浦洋明先生

武蔵野三鷹支部 学術講習会 2/7（金）19：45～21：45

「臨床で良く遭遇する前眼部疾患」講師：余戸拓也先生

北多摩支部 学術講習会 2/7（金）20：00～22：00

「細胞診の続編（細胞診のステップアップ）」講師：浅川翠先生

13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

(1) 東獣ホームページの充実：

関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報等を本会ホームページ、ポータルサイト等に掲載するなどして、ウェブサイトの開示、構築を図った。本年度は、より情報に到達しやすい HP とするため、ユーザーインターフェースの改訂を実施した。

(2) 機関紙（東獣ジャーナル）の発行：

公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年 4 回の刊行と掲載情報の充実に努めた。

東京都委託事業、補助事業や本会委員会における成果物など学術情報を掲載して、知識の啓発に努めた。

また、時流に即した特集を企画し、デザインを大幅に変更するなどより読みやすい誌面とするように図った。

【特集】 No.591（2019.4）「女性の獣医師キャリアを考える」

No.592（2019.7）「GO FASAVA2019！」

No.593（2019.10）「小笠原の事情」

No.590（2020.1）「東獣の事業、いろはにほへと。」

14. 家畜衛生防疫対策事業

14ーア. 牛疾病検査円滑化推進対策事業（農水省補助）；

都内の牛飼養農場において死亡牛が発生した場合に、発生場所から化製場までの適切な管理・輸送と死亡牛の適切な処理に係る費用の助成を行い、東京都が行う死亡牛の牛海綿状脳症（BSE）検査の円滑な推進を図った。2019 年度実績は死亡牛 19 頭に対し輸送費及び適正処理費を助成し、合計 163,000 円の補助金を交付した。

14ーイ. 家畜生産農場衛生対策事業（農水省補助）；

- (1) 疾病清浄化支援対策： 牛の慢性伝染病であるヨーネ病、牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）及び地方病性牛白血病（EBL）による損耗防止とこれら疾病の清浄化を推進するため、東京都が行う検査により摘発されたヨーネ病・BVDV-PI 牛発生農場の同居牛の自主とう汰及び地方病性牛白血病（EBL）の不顕性感染牛の自主とう汰等を助成する事業である。本年度実績は、地方病性牛白血病（EBL）高リスク牛の自主とう汰 2 頭、自主とう汰牛評価人会の開催（2 回）、補助金交付は 64,883 円であった。
- (2) 疾病流行防止支援対策： 吸血昆虫媒介疾病である牛アカバネ病の予防のため、産業動物獣医師及び東京都酪農業協同組合の協力を得てアカバネ病ワクチン接種を計画的、組織的に実施した。本年度実績は、接種頭数 665 頭、補助金交付は 85,120 円であった。

14ーウ. 東京都家畜衛生対策事業（東京都補助）；

- (1) 生産農場清浄化対策： 牛の慢性伝染病であるヨーネ病、牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）及び地方病性牛白血病（EBL）による損耗防止とこれら疾病の清浄化を推進するため、東京都が行う検査により摘発されたヨーネ病・BVDV-PI 牛発生農場の同居牛の自主とう汰及び地方病性牛白血病（EBL）の不顕性感染牛の自主とう汰等を助成する事業である。本年度実績は、地方病性牛白血病（EBL）高リスク牛の自主とう汰 2 頭、自主とう汰牛評価人会の開催（2 回）、補助金交付は 32,441 円となった。
- (2) ワクチン接種の推進： 吸血昆虫媒介疾病である牛アカバネ病及び牛イバラキ病の予防のため、産業動物獣医師及び東京都酪農業協同組合の協力を得てアカバネ病及びイバラキ病ワクチン接種を計画的、組織的に実施した。また、生産性阻害要因となっている牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）等の牛のウイルス性感染症の発生予防のため、牛 6 種混合ワクチン接種料の一部助成を行った。本年度接種実績は、アカバネ病ワクチン 665 頭、イバラキ病ワクチン 621 頭、6 種混合ワクチン 741 頭及び炭疽ワクチン 490 頭（自主事業）であった。

14ーエ. 家畜防疫互助基金支援事業（独立行政法人農畜産業振興機構補助）；

悪性家畜伝染病（口蹄疫、牛疫、牛肺疫、豚熱（CSF）、アフリカ豚熱（ASF））の発生時に備え、発生農場の経営再建に必要な経費等を生産者が相互に支援する「家畜防疫互助基金」制度の生産者等への普及、啓発及び加入促進に努めた。本年度は 26 年ぶりの豚コレラ発生による互助金交付のため、基金が枯渇する見込みであることから、残

事業実施期間における対象疾病の発生に備え、豚生産者(契約者)に対し生産者積立金の追加納付(追加負担割合：300%)をお願いした。2019年度の契約者数は、乳用牛：31戸、1,220頭、肉用牛：5戸、369頭、豚：3戸、834頭、追加納付金は89,640円であった。

14一オ．馬飼養衛生管理特別対策事業；（公益社団法人中央畜産会補助）

東京都内には、乗馬クラブ、大学馬術部、展示や愛玩用等、多様な飼養目的、飼養形態で多くの馬が飼養されている。一方、馬の生産、流通の国際化等の進展や東京オリンピック開催を控え、海外からの感染症の侵入、流行の危険性も大きい。防疫体制の脆弱な競走馬以外の馬の飼養衛生管理体制の総合的な整備を図る必要があることから、公益財団法人全国競馬・畜産振興会畜産振興事業の一環である本補助事業により以下の事業を実施し、馬の飼養衛生管理体制の強化・向上を図った。

(1) 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催

日 時：2019年11月19日（火）15:40～16:30

会 場：大井競馬場事務所事務棟 第一会議室

主な協議事項：

- ・本会が実施する馬の飼養衛生・防疫対策関係事業について
- ・2018馬獣医療実態調査結果報告並びに2019馬獣医療実態調査の実施について
- ・馬飼養衛生管理技術地方講習会の今後のあり方について
- ・馬の伝染性疾病防疫（馬インフルエンザ）対策について

出席者：委員等9名

(2) 馬飼養衛生管理技術地方講習会の開催

日 時：2019年11月19日（火）13:30～15:30

会 場：大井競馬場事務所事務棟 第一会議室

内 容：「知っておきたい装蹄の基礎と蹄病処置法 - 飼養衛生管理の第一歩は足元から-」

講師（公社）日本装削蹄協会装蹄教育センター調査役 森 達也先生
「東京オリンピック馬術競技に係る衛生対策」

講師 東京都産業労働局農林水産部食料安全課 主任 渡邊 唯 先生

参加者：東京都獣医師会勝島支部員、馬飼養者等、馬関係獣医師等 計40名

(3) 地域馬獣医療実態調査の実施

アンケート形式による馬飼養者の飼養衛生管理状況等の実態調査の実施

調査対象：都内馬飼養施設22か所 有効回答数：15か所

14一カ．馬防疫強化地域推進対策事業；（公益社団法人中央畜産会補助）；

都内で飼養される競走馬以外の乗用馬等に対する馬インフルエンザワクチン接種を推進し、都内における馬インフルエンザに対する高い免疫力の確保、維持を図り、もって競馬、馬術競技等の円滑な開催及び馬事振興に資するため、馬ワクチン接種等地域推進対策検討会の開催（1回）及び馬インフルエンザワクチン接種費助成事業を行

った。東京都家畜保健衛生所の協力を得て広く都内馬飼養者に事業案内パンフレット、実施要領を送付した結果、昨年度の助成頭数 9 戸 65 頭を上回る 10 戸 74 頭に助成金を交付した。

- 14ーキ．家畜自衛防疫推進事業（公益社団法人中央畜産会補助）；
2019 年度は実施していない。

15. 医療事故防止セミナー開催事業

都の委託を受けて小動物獣医療の地域への安定的な提供と人と動物のより良い共生社会の構築に寄与することを目的とし、講習会を開催した。昨年に続き獣医師及び従事者の事件を幅広く取り扱う弁護士を講師に招き、実際に起こった獣医療トラブルを例に挙げながら、防止策及び対処法を学んだ。講習会は2部構成で行われ、前半は講師が所属するフラクタル法律事務所が過去取り扱った約100件のトラブル事例と、東京都獣医師会会員への事前アンケート調査をデータベース化し、その調査結果とデータからみる獣医療トラブルについて、後半は近年増えているSNSでのトラブル事例を挙げ、その回避法と対策を学んだ。

都委託事業 2019年度小動物獣医療向上対策講習会

日 時：2019 年 12 月 8 日（日）13:00～15:00 <120 分>

会 場：ホテルポール麴町（東京都千代田区平河町2-4-3）

内 容：「データからみる 獣医療トラブル・回避のポイント」

講師：フラクタル法律事務所 弁護士 田村勇人（たむら はやと）

弁護士 堀井亜生（ほりい あおい）

「SNS トラブルの実例と対策」

講師：フラクタル法律事務所 弁護士 長島 功（ながしま いさお）

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師等 51 名

また当日の講習内容を VTR にまとめ、本会 HP 上で公開して広く普及啓発を行った。

Ⅱ．収益事業及びその他の事業

（１）不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

（２）福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

- 1) 共済給付 ①弔慰金 14 件 ②傷病見舞金 6 名 20 回 ③災害見舞金 1 件
- 2) 旅行保険の加入 3 件
- 3) 無受給退会者への記念品贈呈 8 件

（３）入会促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努めた。また、本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を、関係各所に配布し、入会を促進した。

新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を交付するとともに、関係法令の遵守、獣医療倫理、獣医療過誤防止とインフォームドコンセントの徹底、適切なカルテの記述、適切な広告のあり方等を周知し、飼い主から信頼される質の高い適切な獣医療の体制の確保に努めた。

また、賛助会員 86 社の協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日に記念品の贈呈を行うなど、会員特典と福利厚生の実に積極的に取り組んできた。

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、動物病院の取組みに対する公的経済支援情報や雇用に関わる対策情報等、会員の病院経営に役立つ情報を適宜発信した。

（４）その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

（５）事務委託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った。